

## 古市古墳群

古市古墳群は、羽曳野市と藤井寺市の半径 2 キロ以内に発見された古代の墓墳群である。古墳は 3 世紀から 7 世紀まで日本中で築造された墓だ。巨大な土坡もあり、溝や塚に取り囲まれているものも多い。周囲から土が盛られ、土手ができるように中央に向かって高くなっている。その後、古墳はこぶし大の石で覆われ、平らな面には素焼きの形象焼物が並べられる。

見事な大きさと築造に費やされた労力を考えると、古墳は単なる墓ではなく、富と権力を示すことを意図していたことがわかる。小さめの古墳の内部調査から、日本列島とアジア大陸に住む人々との間で交易があったことがわかった。古墳の多くが、3 世紀から 7 世紀の間にアジア大陸との海運取引所があったとされる大阪湾岸に近い大阪平野の南部に造られていた。

古市地域には、国内 2 位の墳長の応神天皇陵を含む、130 以上の古墳がある。2019 年に、古市地域の 26 の古墳と、堺市の 23 の古墳が百舌鳥・古市古墳群として UNESCO 世界遺産に登録された。